

2. レース編の未熟練者5名に正しい針の持ち方、編み方を教えた後、毎日15分ずつくさり編作業を課し作業時の前腕手指の動きを高速撮影によるフィルム分析し、また、くさり編目の測定によって練習効果を追跡した。

3. 練習開始後4か月間の経過をみると、練習により編む速度が速くなり、それに伴い編み目の大きさはいったん大きくなったが前回に比べ編み目の大きさの変化が小さく、熟練者の目の大きさに早く近似していく傾向がみられる。針の動きも練習開始時から熟練者にみられた「要」のある扇形の運動がみられ、練習に先立って正しい針の持ち方や編み方を教えた効果ははっきりあらわれているようだ。

C-24 手作業の習熟に関する研究 —くさり編作業の習熟過程における動作分析と編み目について—

奈良女大家政 ○大橋 信子
梁瀬 度子
花岡 利昌

1. 手作業の能率的習練の方法を確立するため手作業の習熟過程について人間工学的立場より研究を行なっているが、手先の細やかな動きを必要とする作業としてレース編をとりあげた。習熟過程追跡の第一として被験者に何らの指示を与えないで自然のままの練習経過をみた。その結果は27回関西支部例会で発表した。今回は、被験者に2~3の指示を与えた場合の習熟過程を追跡し、指示を与えない場合との相違を比較検討しようとした。